

SDGs未来都市 佐倉の挑戦

2050年「カーボンニュートラル」と
「自然共生社会」へ

里山資本で
ひと・地域・地球を健康に
佐倉里山ウェルビーイングの実現



なぜ「自然共生」「里山資本」なのか

私たちの暮らしや経済が、 豊かな生態系がもたらす水やみどり、大気など 自然の恵み(自然資本)に依存しているから

【効果】

自然の多様な機能

- ・ 生息地保全
- ・ 水源涵養
- ・ 雨水の貯留・浸透
- ・ 水質・大気質の維持・改善
- ・ 気温の緩和・調整
- ・ 緑陰形成
- ・ 景観形成 等

インフラに活用

環境的效果

- ・ 生物多様性の保全
- ・ 健全な水循環の保全
- ・ 良好な生活環境の形成
- ・ 気候変動の緩和 等

社会的効果

- ・ 食料の安定供給
- ・ 健康増進
- ・ 防災・減災
- ・ 地域コミュニティの形成
- ・ 子育て・教育 等

経済的效果

- ・ 不動産価値の向上
- ・ にぎわいの創出
- ・ 観光振興
- ・ 移住・定住・二地域居住
- ・ 生産性向上 等

+ 相乗効果による **ウェルビーイング向上**

資料:国土交通省「グリーンインフラ推進戦略2030」概要より

過去100年間の人間活動の影響により、
気候変動と生物多様性の損失が
異常な速度で進行
→ 激甚化する災害など 様々な影響



令和元年10月25日の大雨により冠水した道路

「脱炭素」と「自然共生・生物多様性」はメガトレンド

	主な出来事	ポイント
2015年	国連「 SDGs 」「パリ協定」採択	脱炭素 が世界の主流に
2020年	2050年カーボンニュートラル宣言	日本・EUなど主要国が宣言
2022年	COP15「昆明・モンリオール生物多様性枠組」採択	2050年ビジョン「自然と共生する世界」 2030年ミッション「生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せる」(ネイチャーポジティブ)
2023年	「生物多様性国家戦略2023-2030」閣議決定	日本国内でも国家目標を設定
	TNFD提言 TNFD: 自然関連財務情報開示	自然リスクを見える化
2024年	ネイチャーポジティブ経済 移行戦略 (環境省、農林水産省、経済産業省、国土交通省)	自然資本に立脚した企業価値の創造へ
	グリーンインフラ 推進戦略2030	自然を社会基盤に

お金の流れも「脱炭素」と「自然共生」へ

気候資金: 年間数千億ドル規模
生物多様性資金: 2030年までに年間2,000億ドル目標

企業や自治体の
対応が本格化

笑顔輝き佐倉咲く みんなで創ろう「健康・安心・未来都市」

持続可能な社会の実現に向けた佐倉の取組

「ゼロカーボンシティ」 宣言

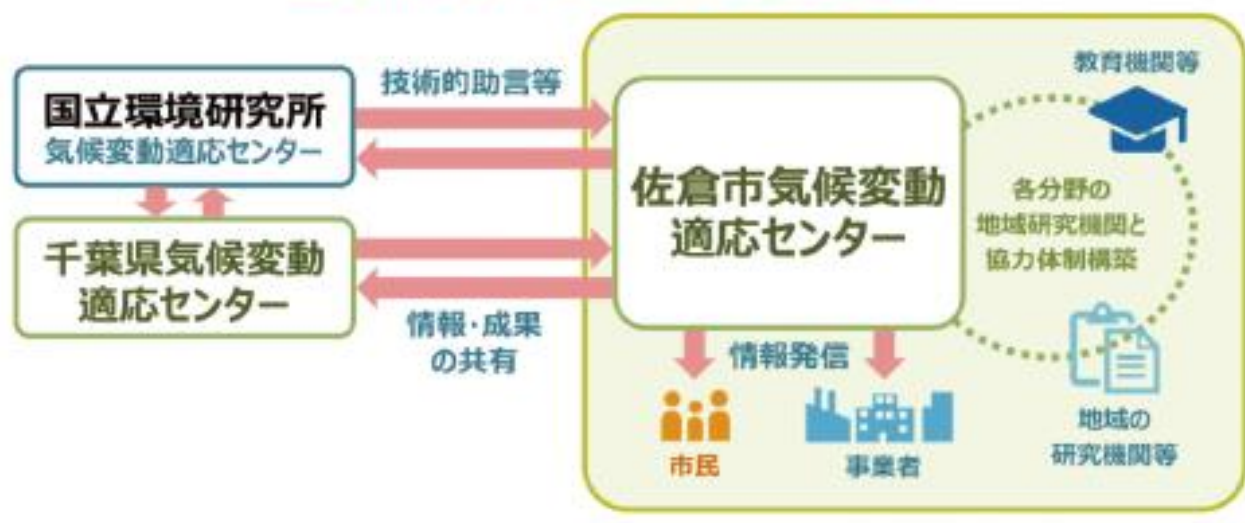
2021年8月

千葉県市町村で初

「佐倉市気候変動適応センター」設置(2024年4月)



佐倉市気候変動適応センター



笑顔輝き佐倉咲く みんなで創ろう「健康・安心・未来都市」
持続可能な社会の実現に向けた佐倉の取組

「オーガニックビレッジ」 宣言

2023年3月



令和9年度までの目標(有機農業に取り組む面積等)を令和6年度時点で達成
新たな「佐倉市有機農業実施計画」を策定(2026年3月)

笑顔輝き佐倉咲く みんなで創ろう「健康・安心・未来都市」

持続可能な社会の実現に向けた佐倉の取組

「ネイチャーポジティブ」 宣言

2026年1月

畔田谷津
「自然共生サイト」
認定(2025年9月)



笑顔輝き佐倉咲く みんなで創ろう「健康・安心・未来都市」

持続可能な社会の実現に向けた佐倉の取組

「佐倉里山大学」開校

2024年6月

建学の精神

持続可能性とレジリエンス(回復性)を高めた里山をつくるために、里山の歴史を学び、人と自然の関わりを知り、次の世代につなぐ人をつくる。

基礎課程(1年次)と専門課程(2年次) 2年間のプログラム

- 里山整備の意義、里山の動植物に関する座学、野外実習
- 刈払機等の実技講習

2026年1月に一期生25人が卒業 「里山守人」に



笑顔輝き佐倉咲く みんなで創ろう「健康・安心・未来都市」

持続可能な社会の実現に向けた佐倉の取組

「SDGs未来都市」選定

2026年7月

里山資本で
ひと・地域・地球を健康に
佐倉里山ウェルビーイングの実現



里山ウェルビーイングとは

「里山を成熟時代における共有財産(コモンズ)として捉え、
多様な世代や生き物が関わり合う新しいつながりをつくりながら、
人生100年時代において心身ともに健康で豊かな暮らしを実現する」考え方

「里山」「コモンズ」を「佐倉の自然・人とのつながり」と捉えてもよい



経済

課題：自然資本を活かし
きれていない地域経済

自然資本を価値に変え、 資金が循環する新たなモデルの創出

- 持続可能な農業構造の確立による「稼げる農業」への転換 **重点**
農地と担い手の確保、競争力のある農業の推進
- 地域資源の価値化と「知産知消」等による需要創出
里山資源を活用した付加価値創出、知産知消、ニューツーリズムの推進
- 人材・企業・投資を巻き込む自然資本循環型経済の形成 **重点**
多様な人材の就労、イノベーションが起るまちづくり、SDGs/ESG経営の促進

環境面の相乗効果①
環境投資の促進による
持続的な自然保全

経済面の相乗効果②
自然資本の価値化による
新たな産業創出

経済面の相乗効果①
市民参画と関係人口の拡大による経済活性化

社会面の相乗効果①
地域ビジネス創出による
雇用と担い手の確保

<三側面をつなぐ統合的取組> 佐倉ランドスケープ マネジメントセンター

- 産官学民金が参画する連携プラットフォームの構築
- SIP等と連携し、自然資本を効果的・計画的に保全・活用
- 多様な主体が柔軟に参画する仕組み

- 農地・里山が有する多面的機能の保全・活用
多面的機能の維持・発揮、生態系ネットワークの回復
- 自然資本を活用した脱炭素・資源循環等の推進
放置竹林等の整備、バイオ炭の農地施用等
- 流域スケールでのEco-DRR・NbSの実装によるグリーンインフラモデルの構築 **重点**
健全な水循環の維持・形成、みどりクールスポットの保全

ゼロカーボンとネイチャーポジティブに 相乗効果をもたらすグリーンインフラ

環境

課題：気候変動や
管理不足等による
自然機能の低下



社会

課題：担い手不足と
つながりの希薄化

自然を活用して多様な人材が交流し、 ウェルビーイングが向上する社会

- 食・農・里山を通じた市民参画と担い手の裾野拡大
農福連携や里山保全を通じた多様な人材の活躍、「耕す市民」を育む食育
- 地域への愛着・誇りの醸成
こども食・農フードブリッジ、アウトドア・ラーニング、環境教育（ESD）や「佐倉学」
- 自然資本を活かしたウェルビーイング向上と関係人口の創出 **重点**
里山×健康フィールド、「食・農」体験等による関係人口の創出

環境面の相乗効果②
市民参加による里山保全、
自然環境の再生

社会面の相乗効果②
良好な自然環境がもたらす
健康と安心



笑顔輝き佐倉咲く みんなで創ろう「健康・安心・未来都市」

持続可能な社会の実現に向けた佐倉の取組

地域資源の価値化

里山資源を活用した付加価値創出の取組



人口減少社会は、一人一人の価値が高くなる社会

「オール佐倉」で
佐倉から始める「自然共生」のまちづくり

里山資本で
ひと・地域・地球を健康に
佐倉里山ウェルビーイングの実現

